

文化の交差点

bunka to bunka no kousaten

2021年冬月号



contents

サークル見聞録

演劇研究会企画公演「蛮勇」 p 1

Essay

「多彩な早稲田サークル文化に、心が震える!」 p 2

文化の案内板

マンドリン楽部 p 3

劇団木霊 p 4

舞台美術研究会 p 5

「文化の交差点」2021年冬月号

発行日:12月13日

発行者:「文化の交差点」編集委員会
代表・神原(教育3年)

連絡先:090-2331-4456

waseda-bunren@hotmail.co.jp



早大劇研企画公演

蛮 ばんゆう 勇

(11月20日～12月5日 映像販売)



「北の果ての小さな刑務所。雑居房に収容されている囚人・テン（1031番）は、同室のジョー（1108番）、ボン（1193番）に協力を仰ぎながら脱獄計画を立てていた。しかしそこに新入りの1326番が無実の罪で収監される。テンは脱獄計画への協力を持ちかけるが、1326番はあまり気乗りしない様子で……」（「蛮勇」ツイッターより）。

ただ舞台に鉄パイプを組んだだけなのに、北の刑務所そのものの雰囲気が出ている。しかも下水道の中まで、鉄パイプと照明の当て方で見事に表現されている。この発想はすごい。いろんな顔の役者がそろっていて、それぞれ個性的で観ていて飽きない。特に主役のテンの、獄仲間の前で強気なところと、彼女の前でダメダメなところが、うまく演じ分けられていて、役者としてのスケールの大きさを感ずる。

誰もが何かから逃げたくて、でも逃げる勇気がなくてくすぶっているような時代に、ボンと背中を押してくれるような、そんな芝居でした。今度はアトリエで生で見たいです。

（柚子湯）

多彩な早稲田サークル文化に、 心が震える！

11月9日の読売新聞夕刊に「コロナ禍でこそ真の芸術を」と題して、国立劇場オペラ芸術監督であり指揮者の大野和士さんのインタビューが掲載された。大野さんといえば昨年、コロナ・パンデミックのもとでいち早く楽器演奏の飛沫測定実験を行ない、音楽活動の再開を追求された方だ。私たち文化系サークルも実験結果を参考にして、サークル活動施設での人数制限の緩和を大学に求めてきた。

大野さんがコロナの影響で延期していたワーグナーの大作「ニュルンベルクのマイスタージンガー」（11月18日から上演）では、登場人物の一人が次のように話す。「春や夏に美しい歌を書ける。それは季節がそうさせるもので当たり前だ。ところが人生には秋がきて、厳しい冬もきて、苦しい軋轢もあるけれど、そこで美しい歌が書ける人が真の芸術家だ」。

ここ1・2年、私たちのサークル活動は、政府の「緊急事態宣言」や大学の感染対策を理由としたサークル活動（対面）の停止措置によって「厳しい冬」を何度も経験した。しかしそんな事態でも、私たちは諦めずにサークルどうしの団結を強くすることを通じて、困難を一步一步のりこえてきた。パンデミックに打ち克つ豊かな精神性・創造性を私たちは培ってきたのではないかと思う。力を発揮すべき時は、まさにいま・これからだ。

「人間は食べるためだけに生きているのではなく、心があり、イマジネーションがあり、感動を求めている。しかし、心は、耕し、水をささないとしおれてしまう」「心に水をさすことは人間にしかできない。そして音楽をはじめ文化芸術は、心を震わせ、イマジネーションの翼を広げ、人間が人間らしく生きるための糧です。それが不要不急のわけがありません」。

大野さんの熱い訴えに、私はとても感動した。様々なジャンルが集まる早稲田の文化サークル活動こそは、コロナのもとでの「自粛」やオンライン授業で孤立しがちな早大生の心を癒し潤す、かけがえのないものだ。心を震わせ、創造性あふれる早稲田サークル文化のさらなる発展を目指して、私は今後もサークル員のみなさんとともに頑張っていきたい。

（文連委員長）



早稲田大学マンドリン楽部 第206回定期演奏会

2021年12月17日(金)
18:00開場 18:30開演
練馬文化センター 大ホール

入場料:無料

YouTube Liveでの配信も同時に行います。

曲目

【第I部】

《王宮の花火の音楽》より序曲 作曲/G.F.ヘンデル
イギリス民謡組曲 作曲/R.ヴォーン・ウィリアムズ
行進曲《威風堂々》第1番 作曲/E.エルガー
学生指揮者:岩井良樹

【4年合奏】

ハンガリー舞曲第4番 作曲/J.ブラームス

【第II部】

大学祝典序曲 作曲/J.ブラームス
楽劇《トリスタンとイゾルデ》より
〈イゾルデの愛の死〉 作曲/R.ワーグナー
歌劇《リエンツィ》より序曲 作曲/R.ワーグナー
学生指揮者:田口敦也



注意事項

開催形態は変更の可能性がございます。随時HPなどでご連絡致します。
演奏会に関するお問い合わせはマンドリン楽部
広報 (waseda_mandolin@yahoo.co.jp)まで。



劇団木霊□□公演
『はらいそ少女解脱教』

企画立案 | 古賀悠真
主宰・作・演出 | すみたしおん

日時 | 2021年 12/23 ~ 12/25
23日 17:00 ~
24日 13:00 ~ / 17:30 ~
25日 13:00 ~



場所 | 早稲田大学大隈講堂裏劇団木霊アトリエ

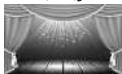
料金 | フリーカンパ制

出演 | 菅原茉利奈
すみたしおん
橘美海
ホシダマサオミ
細谷天歩
山口卓

公演形態 | ○有観客上演および映像配信（生配信）を予定しております。
ご希望の観劇形態を選択の上ご予約下さい。
○アーカイブは配信当日 23:59 までご視聴いただけます。

ご予約はこちらから <https://ticket.corich.jp/apply/115367/>

演劇



2021年度舞台美術研究会 秋季研究会公演

『能楽堂の甕の中には 涙の海が広がっている』

いえない。

ある街の海を望む広い砂浜。
防風林の松林を背に海を望む。
曖昧に、でも確実に、そこに予言された死がある。
そして私は生きている。

砂浜に佇む。たたずむ。たたずむ。
そんな有り様が少しわからなくなった頃、私はただすむと言いつつ間違える。
生きている、それが分からなくなって、海を見つめて、私たちはただ住むことにした。

甕の中に涙を溜めた
いえない声のただすむいえに。



【日時】

12月24日(金)17:00

12月25日(土)11:00/16:00

12月26日(日)11:00

【会場】

早稲田大学学生会館B203

【主宰】 星川全

【出演】

緒方匠、角田優衣、田中豪(早稲田大学演劇研究会)、星りこ(劇団森)、増田悠梨

【脚本・演出】 中亥啾仁

【料金】 無料(フリーカンパ制)

【予約】

<https://ticket.corich.jp/apply/115988/>

【舞台監督】 沖田大悟(劇団森)
【舞台監督補佐】 あかり(劇団森)、伊藤美雪香、加藤すみれ、金子蓮恵(劇団くるめるシアター)
【音響】 公c(劇団木霊)
【音響補佐】 式葉英晃(add9-RAY)
【照明】 伊藤柚
【照明補佐】 矢代緑
【舞台美術】 松本リンタ
【舞台美術補佐】 伊田光希、木村はなび、鈴木京桜、瀬戸口玲、春野慧
【舞台美術協力】 寺原梨英
【制作】 敦郎(劇団森)
【制作補佐】 冴島伶(劇団森)、高田ゆきな(劇団くるめるシアター)
【宣伝美術】 伊藤美雪香
【舞台写真】 コトデラシオン
【映像】 伊藤美雪香、藤本エイスケ(劇団森)
【演出助手】 大澤萌、柿野タネ(劇団森)、矢代緑
【おんがくたい】 伊藤ゆず
【もりあげたい】 泉野はるか
【なかのひと】 岩瀬妃菜